

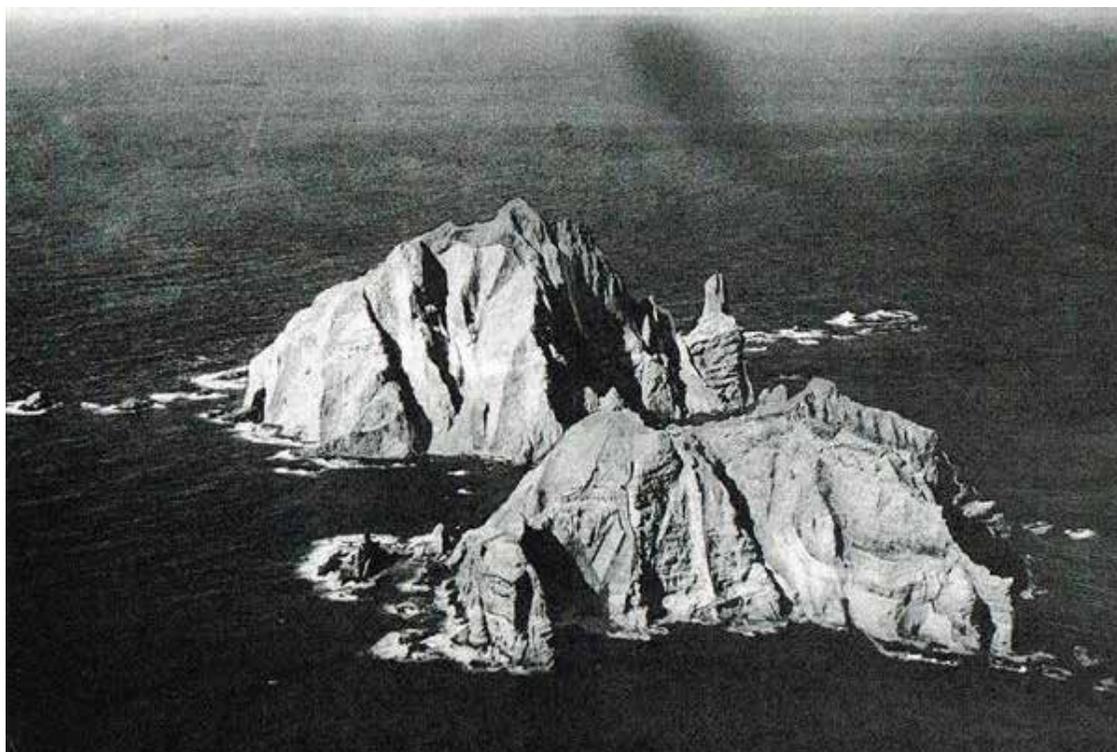
韓国のウソ暴く 衝撃のスcoop写真 “偽りの神話”打ち砕く 「昭和28年の竹島」の姿

産経新聞社が昭和28年12月に撮影した竹島写真(下)。現在ある韓国の工作物(右頁)は見当たらない。

韓国が不法占拠を続ける竹島(島根県隠岐の島町)をめぐり、同町が島内に建

設を進めてきた調査研究施設がある。その施設に、ある写真が重要な資料として展示されている。

それは、産経新聞社が昭和28年12月に竹島を上空から撮影し、翌29年元日付





朝刊にスクープとして記事とともに掲載したものだ。現在、竹島には韓国が多くの施設を建設しているが、この写真にはそうした構造物が全く写っていない。

つまり、韓国による「国家主権侵害」が本格化する以前、かつて隠岐の漁民が目にした竹島の「原風景」が写っており、

「戦後、守備隊が日本の侵略から島を守った」とする韓国のウソを暴く資料としても注目されている。

不当な李承晩ラインに憤り、 空から竹島取材

写真が撮影された28年当時とはどんな時期だったのか。日本が第2次大戦に敗れたあと占領下でサンフランシスコ平和条約に調印したのが26年9月。翌27年1月、韓国が日本海の公海上に「李承晩ライン」を一方的に引き、竹島を韓国に取り込んだ。

日本は同年4月に主権を回復し、平和条約の発効で竹島が日本国領と確定した





が、韓国は竹島に近づく日本の巡視船を銃撃した。そんな頃だった。

写真は29年1月1日の産経新聞紙面(10面)を飾った。「波荒き李ラインを飛ぶ」との主見出し。記事は「巡視船への銃撃、漁船の拿捕(だほ)、船員の抑留…暗い話題を生んだ李ライン水域には、水産日本の深刻な課題が横たわっている、外交交渉による解決への期待をかけられた日韓会談もその後再開をみぬまま、“暗い現実”を今年に持越して(おわ)った」という書き出しで始まる。

韓国軍にバリバリッと撃たれるかも!?

記者の機上りレポートである記事はこう続く。

「いままざまざと日本の非力を感じ機上で歯ざしりをした、そのとき“竹島が見える”と操縦席から声が飛んだ」

『あった』ひと握りほどの海岸の砂浜は巡視艇“へくら”が去る十月四度目に立てた『島根県隠岐郡五箇村竹島』の標柱が、日本領土の標柱だ、三度韓国側に

引抜かれたが四度目の標柱はいま岩影に
 厳然と立っている、しかしこれもいつ引抜
 かれるかわからない」

さらに、その後発行された「週刊サン
 ケイ」昭和30年7月3日号では、「空翔
 けるニュース合戦・近代報道戦の舞台裏」
 とのタイトルで、記者の座談会を掲載。
 その中で、竹島取材を「他社を引き離し
 たスクープだった」とした上で、「竹島飛
 行は一応航空機を持った新聞社は狙って
 いたんだ、しかしアメリカ軍が許可しな
 いだろうと推測したのと、また許可され
 てもバリバリッと撃たれやしないかとため
 らつていたんだ。韓国軍にね…」と振り返
 っていた。

かつて久見の人たちが見ていた 風景

この写真と報道について、竹島に関す
 る調査研究や資料収集などを手がける隠



2016年5月29日完成した久見竹島歴史館
 (竹島資料収集施設) = 島根県隠岐の島町久見

岐の島町竹島対策室の忌部正英主幹は「ま
 だ韓国の施設が建設されていない頃の、
 竹島の航空写真は隠岐に残っていない。
 かつて竹島周辺で漁業に携わっていた久
 見地区の人たちが、当時見ていたであ
 る島の風景だ」と評価する。

同町は、竹島問題をテーマにした調査
 研究施設を久見地区に建設。条例上の名
 称は「竹島資料収集施設」だが、愛称は「久
 見竹島歴史館」という。

施設は木造平屋建て165平方メート
 ル。調査研修室や一時保管室、ロビーな
 どを備える。忌部さんは「この写真を主
 要な資料として展示したい」と話し、A2
 サイズのパネルに仕立ててロビーに掲げ
 ている。

韓国の偽の神話を暴く証拠に

「この写真は、『独島義勇守備隊が日本
 の侵略から独島（竹島）を守った』とす
 る韓国の“神話”を覆す証拠の一つにな
 る」。島根県竹島問題研究顧問の藤井賢二
 氏はこう指摘する。

独島義勇守備隊は、傷痍（しょう
 い）軍人ら33人の民間人で構成され、
 1953（昭和28）年4月に上陸して常駐。
 56年12月に警察に引き継いで解散する
 まで、日本の巡視船の接近を阻止するな
 ど独島守護のため活動した。韓国では
 広く伝わる、このような“神話”がある。